

3. 地質・土質モデルを活用した設計効率化

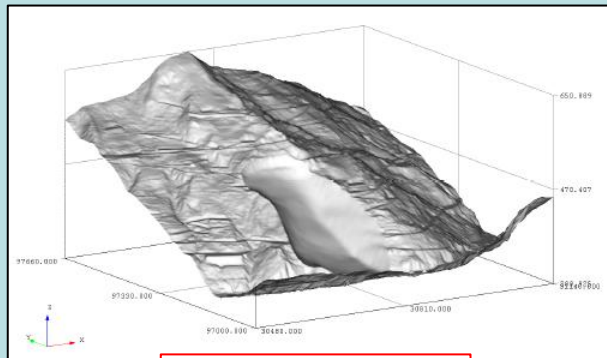
■ 地下水位状況を面的に把握

【実施内容】 地すべり抑制工の対策効果判定の検討を行うにあたり、地下水位の状況を面的に把握した。

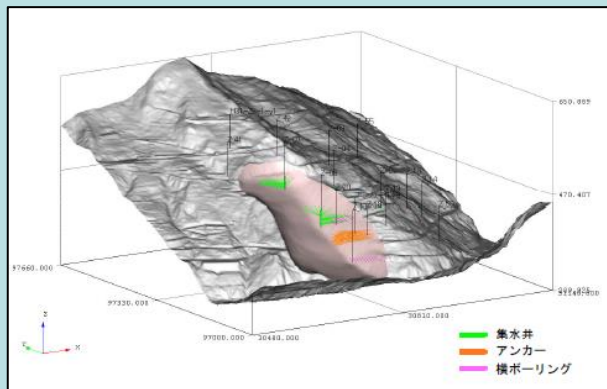
【効果】

- ①対策工施工前後の地下水位の状況を面的に把握することができ、対策工の施工効果が視覚的に表現可能となった。
- ②対策工施工前後の差分水位モデルを作成することにより、対策施工後も地下水位が高い範囲の把握が可能となった。

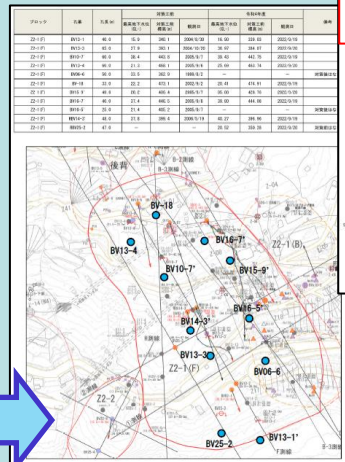
【必要スキル】 ①3次元CADの操作



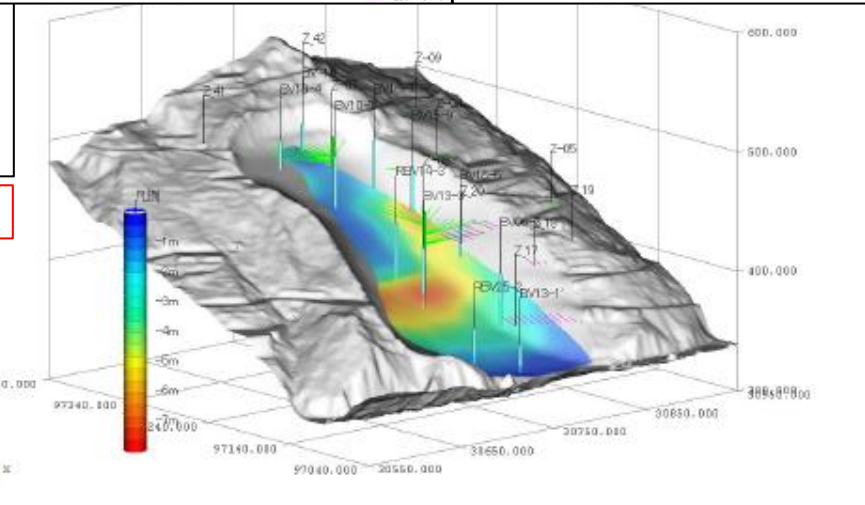
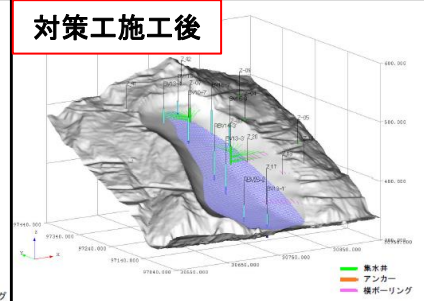
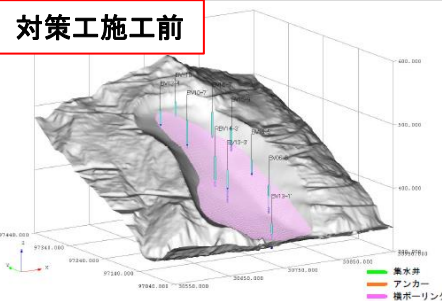
地形モデル(すべり面)



構造物モデル(対策工)



モデル作成時の水位データ



対策施工前と施工後の差分水位

※凡例の暖色は対策施工前後で水位低下が大きいことを示す。